



第 9号 2012年 6月

## 《平成24年度に向けて》

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 小野常芳

昨年度に引き続いて会長を拝命致しました小野常芳でございます。

昨年度は“ともに楽しく！”を合言葉と致しましたが、会員数も54名に増え、活動日数も157日を数え、諸活動への参加率が過去最高となりました。特に新会員13名の活躍が目立った年でありました。

24年度の活動方針といたしましては、これまでの4年間続けてまいりました「世界遺産登録推進プロジェクトチーム」を発展的に解消し、会全体の第1目標として「世界遺産登録推進」を目指す活動を強化します。次に藤井寺市外からの観光誘致ををよりいっそう図るべき方策や企画を行うとともに、お客様に満足いただけるための魅力あるコース作りやイベントを実施します。

そのために、ガイドのスキルを向上し、新たに「ガイド実地研修」を導入します。よろしくお願ひします。

## 《平成 24 年度の活動について》

今年度の会の活動方針の柱は次の2点です。

- ① 古市古墳群の世界遺産登録推進を常に意識して活動すること。
- ② 市外からのお客様の増加を図ること。

そのために、各自がそれぞれの智恵と工夫をもって、積極的に取り組むこととなります。幸い、会の活動には観光協会、市関係部所をはじめ市民の方々にもご理解と多くのご支援を頂いています。

ガイドマナー集を作成し、ガイドマニュアルを更新し、広報活動も拡大しています。また、各種のイベントを通じ会員の意思疎通も十分です。

今年度も「おもてなしの心」を忘れることなく、元気で楽しく活動したいと思います。(岩崎)

## 《ホームページのリニューアル》

ホームページを開設して2年がたちました。閲覧していただく方が多くなってきており、遠来のお客様がホームページを見てイベントに参加されたりしています。

より親しみやすく、記事の充実を図るためにデザインの更新とともに、古市古墳群のページを新設するなどサイトの刷新をおこないました。(鈴木)



## 《道明寺天満宮 梅まつり》

2月11日(土)～3月11日(日)



今年も道明寺天満宮で、恒例の梅まつりが行われました。例年のない寒さと冷えで梅の開花も大幅に遅れ、開始当初は観梅客も少ないだろうとの予測で、初日・二日目はぽかぽか陽気だったものの、三日目には小雪が舞うなどの幕開けとなりました。

当会では期間中の2月11日(土)から3月4日(日)までの23日間、境内に観光案内テントブースを設け、道明寺天満宮縁起や市内案内マップの配布、世界遺産登録を目指す古市古墳群の紹介パネルの展示などのミニガイドを行いました。25日の梅花祭も朝からあいにくの雨模様で、新聞情報も梅の開花状況は連日「咲き初め」から進まず、観梅客の方も、口をそろえて「遅いですな」との感想で、広島から来られたバスツアーの方々などは横なぐりの雪に震えておられました。

当初、2月28日(火)までテントブースを設ける予定だったものを、急遽、3月4日(日)まで延長してガイド活動を行った結果、3月に入って開花が進んだこともあって、期間中千人を超える方々がブースを訪れ、準備した「天満宮縁起」や「ふじいでらまほろばマップ」等の資料を大幅に増刷するなど、盛況裡にガイド活動を終えました。(樽野)



## 《春季ウォーク》 “観梅・酒蔵・遣唐使の里をたずねて” 観梅と閩余の新酒を楽しもう! 2月29日(水)

閩余の日に当会恒例の春季ウォークを開催しました。集合場所は梅の花がようやくちらほらと咲き始めた道明寺天満宮境内。今回は平日開催のうえ朝から雨が降って参加者の足取りが心配でしたが、200名を超える方々が参加されました。藤井寺市を初め、近隣の地域、遠く奈良県、兵庫県からも来られ、市外からのお客様が3分の2を占め感激でした。

集合時には雨もあがり、個別にウォークを始めるグループやガイドについてスタートする方々などそれぞれにコースを楽しまれたようです。道明寺、仲姫皇后陵古墳、応神天皇陵古墳、日本武尊白鳥陵古墳、野中寺、仲哀天皇陵古墳、葛井寺などのスポットを案内しました。お昼には太陽ものぞき、気持ちのいいウォークになりました。ゴールは葛井寺の門前にある酒蔵・藤本酒造醸で、甘酒や新酒、地酒の振る舞いがあり、藤井寺市のゆるキャラ“まなり君”とともに楽しい1日をしめくりました。道明寺餅、みたらし団子など、地元のお土産も大好評でした。ご参加いただいた方々およびご協力いただいた会社・商店の皆様にお礼申し上げます。(鈴木)



## 《世界遺産を目指して》 古市古墳群を巡る

昨年12月3日(土)、恒例の古市古墳群を巡るウォークを開催しました。藤井寺市、泉南市他から16名が参加されました。前日の雨が心配でしたが、集合時にはさわやかに晴れたウォーク日和になりました。土師ノ里駅を出発して、允恭天皇陵古墳、仲姫皇后陵古墳、応神天皇陵古墳など、古市古墳群の中でも大型の前方後円墳や中小の古墳が群集する見どころの多いコースです。大型古墳の周辺に点在する陪塚にも焦点をあてました。

コースの近くにお住まいの参加者は「すぐそばにこれほどの古墳があると知って驚きです」と話しておられました。紅葉で美しい古室山古墳からの眺めが印象深かったです。(鈴木)

## 《藤井寺西小学校》 3年生の社会見学

3月13日(火)、45名(2クラス)が応神天皇陵古墳から道明寺天満宮に至る藤井寺の歴史地区の社会見学に私達も参加し、ガイドのお手伝いをしました。3年生という低学年の子供達でしたが、説明箇所では、絵カードにも興味を示し、熱心に耳を傾けていました。梅の花が満開の古室山では元気に駆け登ったり、天満宮では大きな修羅に大歓声。撫で牛をいつまでも撫でている等、何事にも興味津々の可愛い生徒たちでした。実際に歩き、登り、見て、聞いて、触れて回った今回の経験が高学年になってもきっと歴史の授業にも役立ってくれることでしょう。

(芳尾)



## 《小学校の世界遺産学習》 藤井寺南小学校6年生 4月24日

今年度から藤井寺市教育委員会が市内 7 小学校(6年生)を対象に世界遺産学習を実施することになり、我々もそのお手伝いをすることになりました。

第一回目として4月24日(火)に藤井寺南小 6 年生のフィールドワークに参画し、「三ツ塚古墳と土師氏埴輪窯跡群」のガイドを担当。遠くに第一陣の子供達の姿を確認すると、同時に子供達も私のユニホーム(幸せを呼ぶ黄色?)を見つけるや全力疾走で駆け寄ってきたので、両手で受け止めるようにして迎えてあげました。どの子供達も真剣な眼差しで、自分達の住んでいる街の歴史を少しでも理解し、吸収しようという姿勢が見受けられ私もつつい熱が入り知らず知らず夢中になっていました。

古室山古墳で子供達からお礼の言葉を頂いた時は参画して本当に良かったと思いました。子供達からいっぱい元気を貰いました。(中島)



## 《新緑ウォーク》 5月6日(日)

「柏原の郷土史を語る会」「フィールドミュージアムトーク史遊会」との共催となる今年のウォークは、「柏原」さんが当番で、新緑の竜田道をゆくウォーク。

参加者が 150 名を超える盛況で5組に分かれてスタート。途中雷を伴う雨となり昼食場所に困った場面も。私の今回のお目当ては「亀の瀬地滑り対策地」の排水トンネルと、「亀瀬隧道」という 120 年前に完成した元鉄道トンネルの見学。話には聞いていたものの、目の前にして改めて自然の脅威を身近に感じました。トンネルを過ぎるとそこは青空が広がり、鮮やかな新緑が迫ってきます。一味違ったウォークを楽しみました。(岩崎)



## 《葛井寺 藤まつり》 4月21日(土)~5月6日(日)

今年も葛井寺での藤まつりの期間中、境内に当会のテントブースを設け、「葛井寺縁起」や「まほろばマップ」等を配布しミニガイドを行いました。

又、古市古墳群の写真を展示するなど世界遺産登録にむけてのアピールを図る中で、古墳の姿を初めて見られた近郊の方々が感心されている様子も伺われました。藤の花の開花は天候不順で少し遅れましたが、ゴールデンウィークには例年通り見事に満開になり、名刹と言われる西国の札所を訪れるお客様も喜んでおられました。

期間中お世話になりました住職さん、お寺の関係の方、藤育成会の会長さん他多くの皆さんのおかげで成功裡に終えることができました。(武藤)



## 🍌🌸【研修部だより】 11月30日(水)

昨年度は、当初計画の勉強会、見学会に加えて、会員間の親睦を深める試みとしてバスツアーを実施した。行き先は滋賀県坂本。途中大津市の逢坂の関址に下車して古に浸り、格式高い門跡滋賀院でのご住職の終始の笑顔と、ユーモア交じりの明瞭な話し方に、私達は改めてガイドの基本を感じた。昼食後は竹林院庭園、穴太積みの町並、紅葉真っ盛りの日吉大社、西教寺の散策を堪能した。和やかで有意義な 1 日であった。(福村)

## 筆まつり

4月25日(水)午前11時、道明寺天満宮境内にある「筆塚」前で恒例の「筆まつり」が厳かに行われました。使用済の筆に感謝し、さらなる書道の上達を祈願するもので「書聖」と言われる菅公にふさわしい式典です。厳粛な思いに包まれる中、式典は進められました。(菱木)



## 津堂城山古墳の石槨天井石(その一)

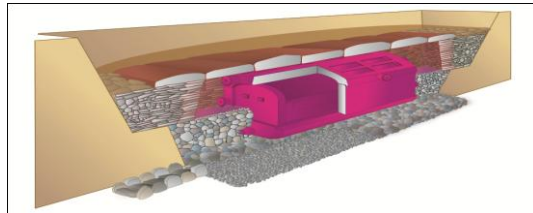
津堂城山古墳のたてあなしきせつかく 縦穴式石槨の天井石が城山古墳ガイドンス棟「まほらしろやま」の  
庭に展示されているのをご存知でしょうか。これにまつわるお話を紹介しようと思います。

この石が出土した津堂城山古墳には、江戸時代に津堂八幡神社がおかれていました。

ところが明治 42(1909)年この神社は小山の産土うぶすな神社に合祀ごうしされてしまったのです(津  
堂八幡神社のしおりより)。村社を懐かしむ津堂の村人によって記念碑の建立が計画され、  
その用材として城山古墳後円部の頂上に一部露出していた板石が候補にあがったのです。

この板石は後円部に造られた埋葬施設の縦穴式石槨の上部を覆う天井石だったのです。

明治 45(1912)年、その板石の掘り上げにかかると、巨大な石棺が現れ、村人を驚かせま  
した。この石棺は巨大なだけでなく、精巧に加工した 6 枚の板石を組み合わせていて、特  
に蓋石には見事な格子紋が彫り込まれていました。この石棺に納められた人物がただもの  
ではないことは誰の目にも明らかだったのです。(つづく) (文責 藤井寺市教育委員会 天野末喜)



縦穴式石槨の模式図

(藤井寺市教育委員会)

## 百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録に向けて(9)

### 仁徳天皇陵古墳

(仁徳天皇百舌鳥耳原中陵)

古来河内の石津原と称される堺市の台地西淵に  
位置し、王陵名は陵墓築造の折、急死した鹿の耳から  
百舌鳥が出てきた事に因む。

墳丘長486m・後円部径249m・前方部辺307mを  
誇る前方後円墳で、総延長は 826mを有し、他の追随を許さない世界一  
の構造物である。中心軸の方位はS30° Wを示し、墳丘は3段に築成され、三重の濠が回る。

墳丘の原型を保つもののやや崩壊が進み、極めて整美な履中陵などと比較して不格好である。

左右繪部には造出しが残り、墳丘などには葺き石が敷設されて小段などには円筒埴輪や朝顔形  
円筒埴輪の柱列が樹立している。前方部に石造りの縦穴式石槨が認められ、長持形石棺が安置され  
ていたが、江戸時代の伝承では後円部にも同様の施設があるらしい。他の出土品としては濠内から  
女性の頭部・馬などの形象埴輪、東側の造出しから5世紀中ごろの須恵器の甕、石棺内から刀剣・金  
剛装甲冑・ガラス製の壺や皿、他に細線式獣帯鏡・単鳳環頭太刀などが得られている。

孫大夫山古墳を始めとする15基の陪塚に囲まれた壮大なテリトリーが広がり、全周2.85kmの周遊  
路が廻っている。なお、当墳南方は、古墳公園として整備されて市民の憩いの場となっている。(寺田)



(写真提供 堺市)